

日本労働年鑑 第51集 1981年版
The Labour Year Book of Japan 1981

第二部 労働運動

X 国際労働組合運動と日本

1 国際労働組合組織の動向とわが国の労働組合

2 総評・中立労連の国際連帯・交流活動

総評の国際連帯活動方針

総評は一九七九年七月二四～二七日開催の第五九回定期大会で七九年度の国際連帯活動方針をつぎのように決めた。

【総評七九年度運動方針、4「国際連帯活動の積極化」(要旨)】

われわれの国際方針の基軸は、積極的な連帯活動を展開する中で、国際組織に対して積極的中立を維持していく点にある。世界経済の相互交流の拡大と、多極化した政治状況の下で、かつての東西体制と表裏一体の関係で存在していた国際労働運動の枠組みは揺ぎつつある。したがって、われわれの堅持してきた積極的な中立路線は、その現実的基盤が強まりつつあるといえる。

われわれは国際連帯に対する基本的態度として次の三点を引き続き堅持していく。(1)組織的に中立の立場を堅持しながら共通する課題について積極的な連帯活動をすすめる。その際相互に自主性を尊重しあい、内部介入はしない。(2)国内外の資本の搾取と収奪と闘い、労働者の利益を守る。発展途上国の労働運動の強化に積極的に協力する。また、あらゆる国の労働者の権利擁護のために闘う。(3)戦争に反対し、平和を守る。帝国主義的経済侵略に反対し、民族の独立を尊重し、民主主義勢力と協力して闘う。

以上の原則に立っての具体的活動の重点は次のとおりである。

(一)欧米主要国の労働組合との二国間交流を継続発展させるとともに、定期協議の可能性を検討する。本年は、AFL-CIO、DGB、TUCに加えて、北欧労組協議会、とくに、スウェーデンLOとの公式交流の開始を検討する。

OECD-TUAC諸会議を通して、経済問題にかんする多国間の意見交換を行なう。また、ヨーロッパの労働・経済・政治に関する情報の収集、さらにはILOやTUACなどとの接触を強化するため、ヨーロッパ事務所の機能をいっそう充実させる。

(二)アジアの労働組合との二国間交流をすすめ、相互理解をふかめつつ共同行動の発展をはかる。アジア地域の労働運動の強化と統一をめざして、あらゆる具体的な可能性を検討する。この地域の発展途上国労組への資金援助を継続し、これら労組からの技術研修生の受入れをひきつづきすすめる。また、アジア労働研究所の活動を拡大強化する。

アジア地域その他における多国籍企業の活動や政府の対外援助などに関連して、労働者や労働組合の意見や要望が国の政策に反映されるよう、他のナショナルセンターとも協力して、努力する。

(三)社会主義諸国の労働組合との関係では、現存する社会主義諸国間の対立抗争にかかわらず総評の主体性と自主性を堅持して交流をすすめる。

(四)従来同様にILOの活動を重視する。とくにILO条約批准の促進、批准した条約や勧告の適用状況の検討、世界の開発途上国労組との接触、また、先進国間および先進国と開発途上国との間の労働経済問題の論議などの観点から、ILO対策をつよめる。

(五)民族自決を支持し、主権を尊重し、人種差別反対運動への支持をつよめる。朝鮮の自主的平和的統一をめざす運動を強化し、アジア諸国間の軍事行動に反対し、パレスチナ解放運動を支持し、チリ労働者との連帯を強化し、アパルトヘイトに反対する。

(六)全世界の平和と軍縮のためにたたかう。とくに、核兵器廃絶のための国際労働組合会議の開催のために努力する。

(七)とくに、資本主義国における産業別の労使関係については共通課題が多く、ILOの場においても産業別国際組織は大きな役割を果たしている。この意味で、産業別国際組織への総評加盟、各単産の加盟を促進し、またこれらの組織との協力関係を強化する。

中華全国総工会代表団の来日

七九年一〇月二九日～一一月八日、総評の招待で中華全国総工会代表団が一六年ぶりに来日した。代表団は、陳宇副主席を団長、章瑞英副主席を副団長に、王継鈺国際部副部長、孫盛泉同部員、王振基同部員の五人で構成された。このうち章副団長は女性である。代表団一行は、一〇月三〇日に総評を表敬訪問して富塚事務局長、土岐国際部長らと会談した。その後、三十一日に日教組、自治労、一一月一日に合化労連、全鋳、鉄鋼労連、全国金属、二日に国労、全交運の各労働組合を訪問した。また一一月二日には総評各単産代表と懇談し、五日には榎枝総評議長、六日には中立労連豎山議長、岡村事務局長らとそれぞれ懇談して交流を深めた。

総評・地評代表団の中国訪問

七九年一一月二六～一二月七日、中国全国総工会の招待によって、五十嵐山形県労働組合評議会議長を団長とする総勢一〇名の総評・地評代表団が中国を訪問した。

中国省市総工会代表団の来日

八〇年五月六日～二〇日、宋侃夫総工会副主席を団長とする総勢一〇名中国省市総工会代表団が総評の招待で来日した。代表団は、総評・中立労連の幹部らと意見交換をおこなうとともに、各地評を訪問して組合員との懇談や工場見学などの多面的な活動をおこなった。

AFL=CIO大会への出席

一一月一五日～二〇日、ワシントンで開催されたAFL=CIO第一三回大会に、総評から及川副議長、土岐国際局長、大西全電通政治部書記、中立労連から豎山議長、岡村副議長が来賓として招かれ、出席した。このAFL=CIO大会への総評の招待は、昨年の総評大会へのAFL=CIO代表の出席への返礼としてなされたものであり、初めてのことである。

アメリカ文化交流センターの招待をうけて三島常任幹事、谷企画部長、豊田全電通中執の三名は、七九年九月七日から三週間にわたって視察のために訪来した。総評代表団は、アメリカにおける労働組合の役割等についてAFL-CIO幹部との意見交換をおこない、各地を視察した。

チリCUT代表との交流

チリCUT代表で、FISE書記長のアルベルト・テクセル氏は、八〇年四月二四日、総評を訪問して榎枝議長、土岐国際局長と懇談した。同氏は懇談のなかで、(1)八〇年一〇月来日予定のピノチェト大統領訪日中止を日本政府に申し入れること、(2)チリ問題の重要性を日本国内でキャンペーンすること、(3)八〇年九月にCUT代表を日本に招待すること、を要請し、総評との間でメッセージの交換をおこなった。

CGIL代表団の来日

七九年一〇月二一日～二七日、ルチアーノ・ラーマ書記長を団長とし、デアテンド・ミリテーロ全国書記、エンソ・チェルミア全国書記を団員とするCGIL代表団が総評の招待で来日した。代表団は、榎枝議長、富塚事務局長と、(1)両国の労働運動の現状と将来、(2)労働戦線の統一、(3)政党と労組の関係、などの共通する課題について意見交換をおこない、つぎのようなコミュニケを発表した。

【コミュニケ(要旨)】

一、総評は日本の労働者が雇用・失業不安と生活悪化に脅かされている現実を説明、代表団はインフレの昂進と多数の失業者の存在、部門別、地域間の不均衡が改善されていない現状を指摘した。

一、双方は、生活と経済の危機を打開するためには、一国の社会・経済の枠組みを民主的に変革することの必要性、労組が変革を望むすべての社会勢力の中で主導的な役割を担っていくことの必要性について一致した。

一、両国の共通の課題となっている戦線統一問題について、双方は、戦線統一が特定の理念を基準にした排除や選別的なものであってはならず、大衆的な参加と合意を基盤にして、労働者の具体的な要求と政策の前進に寄与するものでなければならないことを確認した。

一、代表団は、労組が政党から自立することは、労働戦線統一を促進するだけでなく、労組の社会的影響力を強めることになると確認した。

一、双方は、イデオロギーによる分割とブロック化が時代遅れになっているという共通認識に立ち、各国労働者の相互利益と世界平和を守るためにすべての労組が連帯と統一を強めることの重要性を確認し、この方向でそれぞれのイニシアチブを発揮する。

日本労働年鑑 第51集 1981年版

発行 1980年11月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

労働旬報社

****年**月**日公開開始

